「だったん」
和歌山県環境ポータルサイト
イメージキャラクター

2026わかやまこどもエコチャレンジ
活動レポート

野口 小学校 5年 名前 青木 彩桂

※こちらに必ず記入願います。保護者の同意が得られた児童のレポートは、このままの状態でホームページに公開します。

〈食料自給率と二酸化炭素（CO_2）の関係・私にできること〉

・日本は食料自給率が低く、多くの食料を外国から輸入している。
↓
日本は60年間（1960年～2019年）で半分ほどになっている。

・冷とう技術。輸送の発達で遠くの外国からでも、いたまないように輸入できるようになった。

⇩

食料を運ぶときに多くのエネルギーを使う。
二酸化炭素（ＣＯ₂）が多くはい出される。

日本は世界一環境にえいきょうをあたえているといえる。

⇩

フードマイレージの増加

輸送量(t)×輸送きょり(km)＝フードマイレージ（t．km）

(例)アメリカ・アイオワ州の大豆
1t×19,968 km＝19,968 t.km／CO_2量245.9kg

日本・埼玉県小川町の大豆
1t×34km＝34t.km／CO_2量 0.6kg

埼玉県の小川町で豆ふに加工するとして

⇩

◎フードマイレージをへらすと二酸化炭素（CO_2）もへらせる！

《私ができること》
・地産地消を心がける。
・できるだけ国産のものをえらぶ。
・食べ残しをへらす。
↓
ゴミをもやす時に出るCO_2を少しカットできる。

《感想》
・外国から食料を輸入するのに、たくさんの二酸化炭素が出ていて、環境にえいきょうをあたえていると知りびっくりした。
・少しでも私にできることをして地球にやさしい生活をしていきたい。

「だったん」
和歌山県環境ポータルサイト
イメージキャラクター

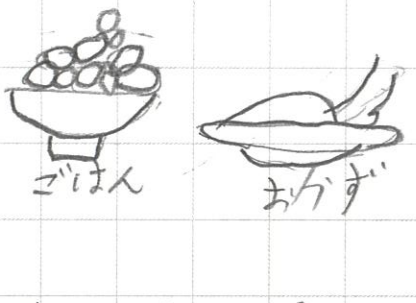
2026わかやまこどもエコチャレンジ
活動レポート

野口小学校 5年 名前 白坂はるま
※こちらに必ず記入願います。保護者の同意が得られた児童のレポートは、このままの状態でホームページに公開します。

食品ロスについて!!

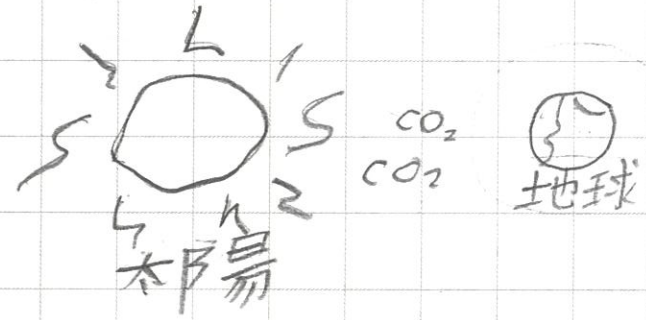
○いつもの食事で、食べ残しがたまにあるので、食品ロスについて調べてみた。

①日本人一人の一年間の食品ロスの量→約45kg(自分の体重より重い)



⇒ 生ごみになる。
ごみ袋が必要になる。⇒年間45kg

②ごみをだすとしょりじょうで燃やされる⇒CO₂がでる。



⇒ 地球の温度が上る(40度近い)

③食品ロスをなくすためには
- 買い物をする前に食材を確認する
  →家にある物は買わないようにする。
- 考えて買い物をする
  →必要無い物は買わないようにする。
- 食べきれる量の買い物をする
- 適切な保ぞんをする→あまった物などを冷凍する。
- 外食のときは食べきれる量だけを注文する。
  →食べ終ってから追加する。
- 食べ残した物を持ち帰る
  →お店に確認してできればそうする

☆食品ロス→年間45kg→生ごみ→CO₂→地球温だん化
このことをふまえ、食事はかならず残さないようにしている。

「だったん」
和歌山県環境ポータルサイト
イメージキャラクター

2026わかやまこどもエコチャレンジ
活動レポート

野口 小学校 5 年 名前 出口翔之介
※こちらに必ず記入願います。保護者の同意が得られた児童のレポートは、このままの状態でホームページに公開します。

電気をたいせつにつかおう ぼくのせつでんちゃれんじ

ぼくは、夏休みにどくしょかんそうぶんの本をよみ、今までぜつめつしていたが、た生きものが人間のせいでぜつめつしていったことを知った。こんいじょうぼくのだいすきな生きものがもうおなじめにあわないようにこのチャレンジをすることにした。

せつでんについてしらべたこと

1時間電気をけすと1年間どれくらい？

1日に消す時間	1年間につもる電気	年間の節約額
10分	約3.7kwh	約113円
30分	約11.0kwh	約340円
1時間	約21.9kwh	約679円
2時間	約43.8kwh	約1357円
3時間	約65.7kwh	約2035円

こんなにもせつでんできるんだ！

ぼくがとりくんだこと

- トイレのでんきをこまめにけした
- そうかのでんきをこまめにけした
- おふろやせんめんじょのでんきをこまめにけした

ぼくの家では、でんきを一日にごうけい1時間ぐらいけすことができた。1年間つづけたら約679円のせつやくになることがわかった。

まとめ

ぼくがすこし気をつけるだけでこんなに節約もできるし地球にもやさしい。だが、世界の人が気をつけるとぜつめつする生物もなくなるかもしれない。ぼくは、友達にも電気をこまめにけそうとみんなにいいたい。

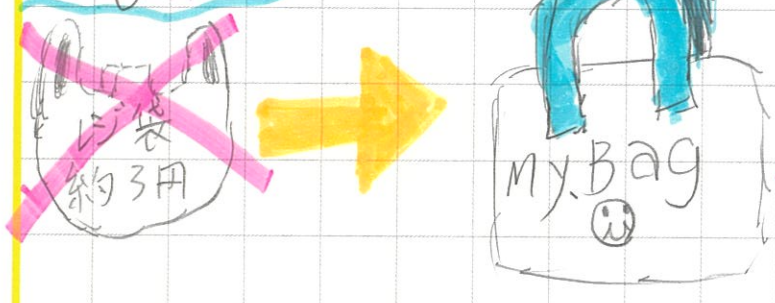
「だったん」
和歌山県環境ポータルサイト
イメージキャラクター

2026わかやまこどもエコチャレンジ
活動レポート

野口 小学校 5年 名前 福田紳樹
※こちらに必ず記入願います。保護者の同意が得られた児童のレポートは、このままの状態でホームページに公開します。

レジ袋を使わず、MyBagを持って行った!!

ある日ぼくは買い物に行きました。そしてぼくは、親がレジ袋を買っているところを見ました。その後ぼくは、どうすればレジ袋を買わくていいのか考えました。次のようなことをおもいました。



〈考え〉

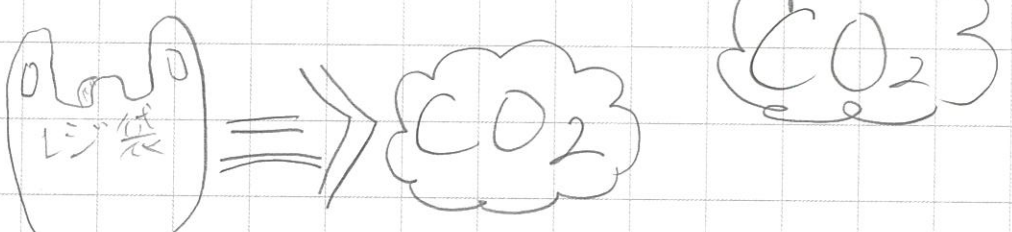
レジ袋を買わずに、マイバッグを持っていく考え

グラフ

レジ袋	マイバッグ
ふえる二酸化炭素の量	
レジ袋	マイバッグ
1回23	1回0
2回46	2回0
3回69	3回0

合計69g　合計0g

このグラフを見ると、二酸化炭素のふえる量は、レジ袋は69gに対して、マイバッグは0gとマイバッグの方が地球温暖化の対さくにより ということが分かりました。



これらの文をまとめて、もう一度、なぜレジ袋をあまり買わない方がいいのかをまとめます。

理由①…お金がかかるから　レジ袋は1回買うごとに、3〜5円のお金がかかるからだよ。

理由②…CO2をふやしてしまうと、地球温暖化が進み、かんきょうにもよくないからだよ。

理由③…マイバックの方がよりから　少しお金がかかるけれど、長く使うことができるし、レジ袋を買わずにすみ、かんきょうにもよいからだよ。

もしかってしまったら…もしかってしまったら、ゴミ袋にもかつようできるよ。

「だったん」
和歌山県環境ポータルサイト
イメージキャラクター

2026わかやまこどもエコチャレンジ
活動（かつどう）レポート

野口 小学校 5 年 名前 萬ケ谷 朔火皇

※こちらに必ず記入願います。保護者の同意が得られた児童のレポートは、このままの状態でホームページに公開します。

タイトル「おかしの電気のない夜の生活を過ごしてみた。」

チャレンジ内容

夜の19時から22時までの3時間、家中の電気を消して、ろうそくの明りだけで家族と過しました。

ろうそくの明りだけで家族と食事をしたり、お風呂に入ったり家族で団らんしたりしました。

一般的な一軒家の照明を想定すると、約250Wの電力を3時間使わなかったことになり、約750Wh（0.75KWh）の節電になることを調べました。お金にすると、約23円分の電気を節約したことになるそうです。

目的

電気のない生活を実際に体験し、昔の人たちの暮らしを知るとともに災害などで停電したときの訓練をすることが目的です。

このチャレンジで気づいたこと

暗いところでご飯を食べてみると僕が嫌いなイカも、肉なのかイカなのか分からず、食べることができました。

いつもは、明るい生活を当たり前だと思っていますが昔の人たちは電気のない暗い夜を過していたのだと思うと、今の生活がとても便利だと感じました。

電気を消すと、いつもより静かに感じました。明るいときには気づかなかった虫の音にも気づくことができました。

また、ろうそくを持って移動するとき、ろうそくを持つ人と荷物を運ぶ人の二人がいたほうが安全だと分りました。暗い中では、一人ですべてをするのではなく人と協力することが大切だと感じました。少し不安にもなりました。

これからどうしたいか

家族や友達にもこの体験をしてもらい災害時に落ち着いて行動ができるように広めたいです。

ろうそくの光には、心を落ち着かせてくれる力もあると感じます。これからも電気を大切にしながら、電気がなくても楽しめることを探していきたいです。